

E-4 加齢に伴う生活と適応能力の喪失に関する研究。才三報：訪問面接調査
の茶女大・家政・文教育の浅見千鶴子、富田守、水野隆一、森下はるみ。

目的 前報では質内紙調査による老年令、老年に女性の生活状況、健康状態および精神機能の特質の報告を行なったが、更に質内紙調査に回答があった600人の中から約20名と選ばれ、訪問面接によるさきとり調査を行い、質内紙調査ではうかがうことができなかった詳細なデータを得て、生活と適応能力の喪失に関する追跡と分析を行うことと目的とした。

方法 質内紙回答者の中から東京およびその近郊に居住する方を選び、訪問・面接の依頼状を送り、都合・日時等について承諾の回答された20名の家へ面接者が訪問し、さきとり調査を行う。テープレコーダーで話を録音、またカメラで被験者の全身像と撮影させていた。

結果 1) 被験者の年齢は平均72才(95才~68才)、80%以上が土地・家にも自己所有であり、独居者は1名、他は何らかの同居者がある。2) 健康はたいへん良好、寿命に伴う症状のいくつかはすべての者に見られるが、一般老人に比べて少く、軽微で日常動作に支障がない。3) 生活史・体験は適宜に成功した人、心理的に健康な者の多い人と共通な特徴が見られる。最期の期をとりわけ、知識放逐、布衣或は被服の体験をもつ、80%は能く、大や子どもに恵まれた。半数は結婚を結り、20年以上家庭との両立に成功した。4) 晩年で仕事をもつ。収入を得ている者30%あり、全員が趣味や楽しみをもつ。教育と努力をいっている。5) 自分の生涯と折りかえって大体満足しており、回顧的線返しはごく少く、現代社会に積極的に関心をもっている。晩年によく適応してきていると同時に、加齢に伴う変化をよく懐念していることが察せられた。質内紙調査で得られた特徴の裏付けを得られた。